



2023湖っ子食育大賞

大賞は、高島市立本庄小学校に決定！

滋賀県教育委員会では、児童生徒が正しい食事のとり方や望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校を中心に家庭・地域とも連携した食育を推進しています。

平成19年度に学校や園の特色を生かした優秀な食育の取組を表彰する「湖っ子食育大賞」が創設され、令和5年度は17年目となり、県内の学校から13校の応募がありました。審査の結果、大賞は高島市立本庄小学校に決定しました。

～受賞校の概要～

大賞 高島市立本庄小学校

「湖魚のおいしさを知り、琵琶湖の恵みに感謝しよう!」をテーマに取り組まれました。

地域の方の多大な協力により、琵琶湖の魚を通した地域の産業・食文化について、3年生から6年生までの発達段階に応じた体験的な食育がとても効果的に実施されています。最終の成果として保護者や地域の方を対象にした料理教室まで開催され、まさにふるさと本庄の地域に根差した取組となっています。

琵琶湖の漁法や湖魚の調理法にも、昔の人の考え抜いた知恵が今も残っており、その伝統を受け継ぎ琵琶湖の魚を大切にしたい、その魅力を周囲に伝えていきたいという思いが子どもたちに芽生えています。



湖魚料理体験の様子

優秀賞 大津市立仰木小学校

「地域ぐるみ(交流や情報発信など)の食育の取組」をテーマに取り組まれました。

小規模校の利点を生かし、学校全体で6年間を見通し、棚田学習・スクール田活動・地域の収穫祭と学習活動が連動して実施されています。地域の方々との協働活動も多く、「社会に開かれた教育」が行われていることが、全国学力・学習状況調査の結果にも表れており、郷土を愛する心の育成につながった実践となっています。

優秀賞 長浜市立速水小学校

「『主体的に楽しく学び、望ましい食生活を送ることができる児童の育成』をめざして」をテーマに取り組みました。

ICT を活用した取り組みが教科、給食の時間、児童会活動、読書週間といった「食」と関連のある分野において、さまざまな観点から実施されており、食に関する興味関心を広げるきっかけになっています。全教職員で食に関する指導の全体計画を見直され、養護教諭や図書館司書との連携も行われており、学校全体で取り組む食育活動は、まさに学校での食育推進のお手本となる実践となっています。

優秀賞 日野町立桜谷小学校

「健康で生き生きとした生活を送り、豊かな心を育成する食育指導を目指して」をテーマに取り組みました。

地域の方々の協力を得た栽培活動、自校給食の良さを生かした給食室との連携など、児童が様々な方と関わることで、地域を誇りに思う気持ちや、食べ物とそれを作る人々への感謝の心が育まれている実践となっています。

学校からの情報発信やフィードバックも積極的に行われており、また、小規模校の利点を生かした全校で組織的に取り組む推進体制が構築されています。

優秀賞 滋賀県立盲学校

「触って 匂って 味わって 盲学校での食育の取り組み」をテーマに取り組みました。

盲学校ならではの観察・体験を取り入れた活動により、自分の持つ五感を最大限に活かし、食への関心と理解を深める食育の取組が実践されています。

ランチルームに設置した食育モニターを活用し、視覚障害を有する幼児児童生徒の実態に合わせた情報発信や、おたよりを活用した家庭への情報発信も積極的に行われています。

食育大賞および優秀賞を受賞されました5校には、記念品としてお祝いの「焼き海苔」をイメージして作られた信楽焼の盾を贈呈しました。

〈 湖っ子食育大賞 支援・協力 〉

公益財団法人 滋賀県学校給食会(副賞・表彰記念品制作)

県立信楽高等学校(表彰記念品制作)

